



コロナウイルス感染症への対応

2020年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により渡日できなかった留学生も多く、日本人学生の留学・研修等での海外渡航も現時点では認められていません。一方で、10月以降留学生の渡日が少しずつ実施されつつあります。インターナショナルオフィスは、このような状況において、各部局や地域と連携しつつ受け入れた留学生への対応や各種のオンラインの取り組みにより、留学生の学習支援、経済的支援、心の支援や、日本人学生のモチベーションの維持や留学意欲の醸成を図ってきました。ここでは、我々の取り組みの一端を紹介させていただきます。

○桜の木の下で決意表明

我々インターナショナルオフィスの姿勢を表明するため、年度当初に桜の木の下で写真を撮影し、海外の協定校に文章を添えて送付しました。



本学構内にて▶

○消毒液の準備やアクリル板の設置

マスクの着用及び手洗いの徹底に加えて、徳田インターナショナルオフィス長の指導の下、「手作り」の消毒液を作成し教職員で共有しました。加えて、国際グループ窓口にはアクリル板を設置し、対面時の体制を整えました。すべての手続きがオンラインで可能なわけではありませんので、このような対策も必要です。



消毒液の作成



対策済み窓口

○経済支援を含む、様々な支援

本学からも支援を行いました。表に記載の通り、多方面よりご支援をいただいております。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に係る留学生支援一覧

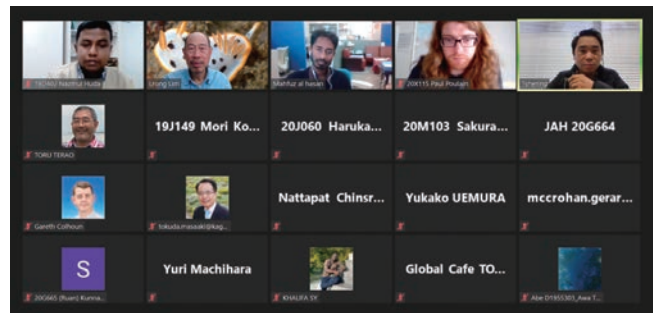
内 容		支援機関	内 容		支援機関
オンラインでの授業・ガイダンス等の提供			生活支援（一時金や現品支給等）		
1	新入生ガイダンス等各種ガイダンスをデータ配布やオンラインで実施	香川大学	12	緊急学生支援金制度（第1期～第3期：5月～7月）	香川大学
2	授業をオンラインで実施	香川大学	13	「学びの継続」のための学生支援緊急給付金（第1次：6月及び第2次：7月）	文部科学省
3	国際寮のWi-Fi環境の整備	香川大学	14	新しく海外から入学を希望する留学生及び海外へ一時帰国していた留学生で日本に再入国する者に対する健康観察時に係る経費支援	香川大学
4	授業・生活等に係る相談・面談をオンラインで実施	香川大学	15	マスク配布	非営利(株)ビッグ・エス インターナショナル
5	インターナショナルランチ	香川大学	16	うどん玉、レトルトカレー、クラッカー、アルファ米	高松市社会福祉協議会
6	本学受入プログラムの紹介として、協定校に向けてオンラインで体験授業を実施（留学希望者等への対応）	香川大学	17	米	香川県社会福祉協議会
渡日時の健康観察支援・各種情報提供			18	保存水	NTTビジネスアソシエ 西日本四国支店
7	文部科学省と連携して、14日間の健康観察を実施	香川大学	19	非常用食糧セット	四国電力香川支店
8	渡日ルートに応じた受入れ体制の確保と受入れマニュアルの整備	香川大学	20	レトルト米（さぬき米おいでまい）	JAグループ香川
9	新規入国予定留学生向けの入国に係る手続き説明用資料の作成・配布	香川大学	21	季節の新鮮な野菜 幸町7/27、農学部7/29、10/18（津田松原ビーチでの交流会時）	高松ライオンズクラブ（さぬきポレポレ農園）
10	新型コロナウイルス感染症に係る各種情報について英訳により発信	香川大学	22	野菜と果物、月1回のペースで支援	渡辺エンタープライズ
11	日本人学生のサポーターやチューターによる生活支援・学習支援	香川大学			

まだすぐに以前のような活動ができる状況にはならないようですが、今後とも留学生がしっかりと生活・学習できる環境を整え、大学生活を全うできるよう支援してまいりたいと思います。

<国際交流活性化の推進>

オンライン・インターナショナル・ランチ・プレゼンテーション

グローバルカフェと留学生センターが共同で開催するイベントで、6月25日から実施しています。コロナ禍において留学生たちが孤独にならないように、交流の場を提供することと、日本人学生に留学生たちとの交流の場や英語力向上の機会を提供することという2つの目的を達成するために企画しています。現在は週に1回のペースで、発表者は日本人学生と留学生が交代で行っています。発表は英語で行います。



実施中の様子

グローバル・カフェの活動・イベント

○オンラインでのクラス開講

前期はZOOMを利用して17クラスその他を開講、約120名の学生が登録し、延べ933回受講がありました。

実践的な運用力を磨く英語クラスのほかに、スペイン語のクラスも実施しました。

英語以外のクラスとして、後期はスペイン語に加えて中国語、タイ語、フランス語の会話クラスも実施しています。また、12月19日(土)に実施するTOEIC S&Wテストに向けた対策クラスを、大学教育基盤センターと連携して10月から開講し、48名の学生が受講中です。学生は無料でテストを受検できますが、それにはこのクラスの受講が必須となっています。

Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
10:30-11:30		Study Abroad Consultation (Y Uemura)	Casual English Conversation (Y Machihara)		International Pop Culture (G Perkins)
13:10-14:10	Dr. Gaga's English Clinic (Gaga is not a doctor) 1 (G Colhoun)	Skill up English (B Okauchi)	Dr. Gaga's English Clinic (Gaga is not a doctor) 4 (G Colhoun)	English for Academic Purposes (B Okauchi)	Dr. Gaga's English Clinic (Gaga is not a doctor) 5 (G Colhoun)
14:50-15:50	Dr. Gaga's English Clinic (Gaga is not a doctor) 2 (G Colhoun)	Smalltalk (G Colhoun)	This Week in the News (A Caldwell)	Listening in English (G Colhoun)	English Conversation Class (K Sy)
16:30-17:30	Dr. Gaga's English Clinic (Gaga is not a doctor) 3 (G Colhoun)		Writing English for Academic Purposes (G Colhoun)		Points of View (G Colhoun)
18:00-19:00				Spanish Class (G Garcia Fernández)	

○グローバル・カフェ学生委員会

グローバル・カフェの年間イベントを学生主体で計画、促進、運営することを目的に、グローバル・カフェ学生委員会(Global Café Student Committee: GCSC)を立ち上げました。各学部から1名ずつの日本人学生7名と留学生1名の学生メンバーと指導教員で構成されます。前期は、オンラインでクイズナイトや映画鑑賞等の交流イベントを、合わせて12回実施しました。また、「香川大学88か所選定プロジェクト」を企画し「ものっそ香大★チャレンジプログラム」に応募、採択されています。

○オンライン・ハロウィンイベント



10月29日(木)午後7時半～9時に、オンラインでハロウィンイベントを開催しました。このイベントは、グローバル・カフェの学生組織であるGCSCが中心となって企画・実施したものです。

仮装コンテスト、ハロウィンクイズ、怖い話の紹介を行ってハロウィンの雰囲気を楽しみました。日本人学生8人に加えて、留学生が3人参加しました(タイ2名、フランス1名)。

また、前期のさめきプログラムに参加した元留学生がドイツから参加し、オンライン開催ならではの国際色豊かなイベントになりました。さらにインターナショナルオフィスでインターンシップ中の高校生の参加もありました。

○ニュースレターの発行と公式LINEアカウント

グローバル・カフェの活動を報告し、次学期のクラスについて周知するため、年に2回発行することとし、第1号を9月18日に発行しました。前期の授業に参加した学生たちのコメントや後期クラスの内容紹介が掲載されています。

なお、グローバル・カフェの活動周知のために、新しくLINE公式アカウントを作成しました。

登録はコチラ

右記QRコードを読み取って
「香川大学 Global Café」を
友達追加しよう!!

<https://line.me/R/ti/p/%40371mdcwk>



合同シンポジウムの準備状況

2007年に始まったチェンマイ大学との合同シンポジウムは、第8回の開催を2020年9月に香川で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりました。また、国立嘉義大学とは、2012年より合同国際ワークショップの開催を始め、2021年は第8回を香川で開催する予定となっていました。3大学の合意により、この2つを統一し、3大学合同シンポジウムの形で、2021年8月30日～9月1日に開催することとなりました。

3大学合同シンポジウムではメインテーマを持続可能な開発目標(SDGs)とし、異分野融合のセッションを目指すために、これまで医学、農学、工学、社会科学と分類されていたセッションを、SDGsのカテゴリーに基づくセッション区分とします。更に、共同研究を希望する若手研究者が多く参加するように企画します。合同シンポジウムの開催に向け、参加する可能性のある研究者及び学生を対象に、事前にオンラインセミナー等の情報交換や交流の機会を設ける計画を立てています。

<外国人留学生対象行事>

2020年度4月期日本語研修コース（日研生）修了式

今年度4月期（春期）はコロナ禍により新規渡日留学生の受け入れができなかったため、新たなさめきプログラム学生もゼロ、開講式も無しでしたが、修了式は、昨年10月よりインターナショナルオフィス留学生センターに所属している日本語日本文化研修生1名のため開催しました。

いつものような修了生の浴衣着用も、学外の方の参加も、式後のパーティーもなく、関係者のみ短時間のこじんまりとした会になりましたが、同時期に帰国する他部局所属の留学生が参加してくれたり、修了式後に3密に配慮したささやかなティータイムを設けられたりと、小規模ならではのアットホームな雰囲気の中で日研生1名の修了を祝うことができました。当該学生はこの後無事タイへ帰国・復学しました。



修了式後の集合写真

留学生の渡日と各種留学生対象ガイダンス

インターナショナルオフィスでは、新入留学生を対象に、新入外国人留学生ガイダンスを実施しています。4月期においては、本ニュースの前号で述べたように、主に動画を活用した対応により、留学生対象の各種ガイダンスを実施しました。

10月に入り、国費留学生の渡日が徐々に許可され始めました。例年一定数入ってくる交換留学生等は、ごく一部の例外を除きませんので、人数はかなり限定的です。また、所属にも偏りがあります。そこで、新入留学生ガイダンスに関しては、各部局で対応するなど、個別に実施しています。その際には、4月期同様動画を活用しています。寮のガイダンスについても、寮により対応方法に違いはありますが、個別または動画で対応を始めているところです。

私費留学生に関しても、人数は少ないもののようやく動き出しそうです。一方で、制度上は少し先に動き出している国費留学生の中にも、フライトの相次ぐキャンセル等により、渡日できていない学生もいます。先に述べたように本学としては刻々と変化する状況に柔軟に対応できるよう体制を整えていますので、これらの学生の渡日が待たれます。

<日本人留学生増加のための取り組み>

オンライン留学相談

海外渡航ができず、またキャンパスに来ることのできない状況下で、留学に対する意識を保ち続けるために、毎週、オンラインによる留学相談日を設けています。前期は述べ16名の学生の申込みがあり、留学に対する疑問、助言、思い等様々な内容での相談を受けました。学生たちとの会話を通して、コロナ終息後の留学への関心の高さを感じます。

西オーストラリア大学オンライン夏季英語研修

香川大学の協定校である西オーストラリア大学英語教育センター（UWA CELT）がオンラインで実施する5週間の夏季英語研修の募集を行い、5名（経済学部2名、教育学部2名、創造工学部1名）の学生が8月17日～9月18日の研修を受講しました。

募集にあたってはUWA CELTの担当者とオンラインでミーティングを持ち、受講者からのフィードバックについて等、



情報や意見を率直に交換して進めました。

受講者の満足度は非常に高く、「英語学習へのモチベーション、留学への興味が高まった」「実際の留学がベストと思うが、オンライン留学も価値があると思う」「話すこと、意見を述べることに對して抵抗をあまり感じなくなった」などの感想がありました。

なお、本学の学生も登場するこの研修のPR動画を以下のリンクで閲覧することができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=EOky54elaN8&feature=youtu.be>

『ちきゅう見聞録』

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、留学を中断することを余儀なくされ、急遽帰国し、自宅からのオンライン受講となった学生もいます。そうした状況下でも、できる範囲で貴重な経験をしたことをレポートしてくれました。



<リクルーティング>

留学生対象進学説明会

インターナショナルオフィスは、留学生のリクルーティング活動および広報活動として、各種説明会に参加しています。説明会にはJASSO主催の大規模なもの以外にも、民間企業主催のものもあり、会場はイベント会場や日本語学校の校内などがあります。今年度は、JASSO主催のものが早い段階で中止となり（後に規模縮小してオンライン実施）、民間主催のものは見通しが立たない状態でしたが、徐々にオンラインや会場での実施が決定されていきました。

最終的には、表に示した通り、例年並みの回数の説明会に参加しました。上記の理由でかなり特定の時期に集中して実施され、すべての会場で例年並みの来訪者があったわけではありませんが、総合的に見れば例年と遜色なく実施されたと言えます。

日程	開催都市	会場
7月 3日(金)	大阪	オンライン
7月24日(金)	新大阪	オンライン
7月27日(月)	岡山	サン・ピーチOKAYAMA 本学はオンライン参加
8月 7日(金)	岡山	岡山ターミナルスクエア 本学はオンライン参加
8月18日(火)	高松	高松センタービル
8月26日(水)	大阪	たかつガーデン 本学はオンライン参加
9月 4日(金)	高松	高松センタービル
9月16日(水)	大阪	大阪国際交流センター 本学はオンライン参加

<他機関との連携活動>

全学共通科目「プロジェクトさめき」における連携



アーキペラゴの森田様

さめきプログラムの留学生と日本人学生の共修のために全学共通科目として開設し、インターナショナルオフィス教員が担当している「プロジェクトさめき」授業において、昨年度までは香川県における様々な社会問題を扱っていましたが、今年度より、国連の定めるSDGs (Sustainable Development Goals) 17の目標のうち14番目「海の豊かさを守ろう」に基づき瀬戸内海の環境に焦点を当てた授業を行っています。

第2クォーターでは、コロナ禍のためほぼ全ての授業がオンライン配信となり、本授業受講生も、日本人学生54人に対して留学生1人と、非常にイレギュラーな

状況となりましたが、そのような中、香川県環境課環境森林部環境管理課里海チームおよびNPO法人アーキペラゴの方々のご協力により、充実した講義や研修を行うことができました。

県の職員の方々には遠隔講義、アーキペラゴの方々には、コロナ禍および集中豪雨のため断念した海岸での実地研修に代わるものとして、大講義室で3密に配慮しながら体験学習を含む出前講座を開講していただきました。学生たちは、初めて知る情報や現状に真摯に向き合い、本授業初にして唯一の対面授業となった出前講座では、プラスチック汚染によるウミガメや海鳥の影響を模擬体験したり、初対面の学生同士でディスカッションをしたりと、充実した学びができました。また、座学や体験学習等をふまえてのオンラインでのグループ発表では、本学で環境や里海がご専門の経済学部原直行教授と創造工学部長谷川修一教授、そして徳田雅明インターナショナルオフィス長に参加・講評いただき、全7回の授業としては非常に中身の濃いものになったと自負、感謝しております。

関係各位には今後も引き続きご協力いただく予定で、対面／遠隔いずれの形態になったとしてもより一層充実した授業にしていきたいと、次の授業計画を練っているところです。

<地域との連携・交流>

三木高校生 インターンシップの受入れ

インターナショナルオフィスにおいて、昨年度に続き今年度も三木高校生4名をインターンシップ生として受入れ、2020年8月、9月、10月、11月と月一回の活動を実施してきました。

8月は留学生会館を訪れて留学生の生活支援について学び、入居中の留学生たちと対談しました。9月はイスラム圏学生への対応をテーマに徳田オフィス長と生協の西山部長から講義を受け、多目的室を見学しました。また、イスラム社会を扱った本をもとにブックトークを行って、アイデンティティや宗教観、ムスリムのイメージ等についての考察を深めました。10月は農学部、11月は医学部を訪れて、それぞれの学部における国際交流の仕事について学び、留学生と対談しました。



8月

留学生会館の
管理人さんから話を聞く

留学生との対談



9月

多目的室見学

大学生協食堂の対応に
についての講義



10月

農学部の留学生に英語で質問



11月

医学部の先生、留学生、
事務の方たちから話を聞く

留学生に野菜を提供

7月27日(月)に、高松東ライオンズクラブ様から、新型コロナウイルス感染症によるアルバイトの減少等により生活に影響を受けている留学生への支援の一環として、さぬきポレポレ農園(高松東ライオンズクラブ会員)様の季節の野菜8種類のご寄附をいただきました。



高松東ライオンズクラブ様と

当日は、本学OLIVE SQUARE(多目的ホール)において、高松東ライオンズクラブ様から本学への贈呈式が行われ、覚学長から、本学留学生への支援について謝辞が述べられました。贈呈式終了後には、引き続き同会場で留学生に野菜が配布されました。

7月29日(水)には2回目として、農学部においても高松東ライオンズクラブ様から留学生への直接配布が行われました。10月18日(日)には3回目として、津田松原ビーチでの交流会時に、留学生と一部の日本人学生に新鮮な秋野菜が配られました。

また、9月10日(木)に、有限会社渡辺エンタープライズ様(野菜、果物の卸売業を経営)より、コロナ禍により生活に影響を受けている留学生への支援の一環として、野菜と果物のご寄附をいただきました。支援を受け取った留学生からは、「今年は野菜が高いからとても助かります。ありがとうございます。」という感謝の声が寄せられました。また、2回目(10月7日(水))、そして3回目(11月20日(金))も実施され、今後も月に1回程度のペースでご支援いただく予定です。

<留学生の声>

さぬきプログラム11期生の修了スピーチから

Rangson Soitip

(別記事で紹介した、日本語研修コースを修了した学生のスピーチの一部です。)

今でも初めて香川県に来たときのことを覚えています。その時に戻りたいと思うほど、香川県も香川大学も大好きです。帰国しても、香川大学での日々を絶対に忘れません。楽しかったこと、嬉しかったこと、良かったことを全部、チェンマイ大学を中心にタイの人たちに話します。みんなもきっと私みたいに香川大学が好きになると思います。そして、香川大学で積んだ経験をできるだけ活かします。もっと努力して、将来必ず香川県に戻ってきます。



スピーチ中のRangsonさん

コロナ禍において本学で学ぶ学生たち

Paul Poulain

(留学生が入国できなくなる以前に本学に入学し、現在も本学に在籍している学生です。)

今コロナが大変ですが、花園寮はしずかです。私はちょっとさびしいです。

2月にドイツ人やフランス人やトルコ人がいました。毎夕たくさん話したりゲームで遊んだりしました。楽しかったです。コロナがヨーロッパでとても大変で、今フランスはロックダウンしています。家族は私を心配しています。毎日電話をもらいます。ときどき早く起きるので兄や友だちと遊べます。今私は日本語の小説とマンガを読んでいます。でもこれはとてもむずかしいです。つぎの日曜日に小豆島で秋の色を見たいです。友だちは、「小豆島にロープウェイがあって、そこのたくさんのもみじがきれい」と言いました。

Kifle Gebretsadik

(最近入国が許可され、ホテルでの14日間の観察期間を乗り越えた学生です。)

わたしはキフレともうします。エチオピア人です。かがわ大学に来てほんとうにうれしいです。わたしのくにのことをかんがえると、かぞくとれんらくがとれなくて、すこしんばいです。エチオピアは今せんそう中です。しかし私は日本にすることができて、ほんとうにラッキーです。かがわは、あさとよるはすこしさむいですが、ひるはちょうどいいです。日本のせいかつはすぐなれるとおもいます。コロナのせいでたいへんですけど、気をつけてにほんごをべんきょうしています。たくさんべんきょうして、にほんごがぺらぺらはなせるようになりたいです。これからますますがんばります。



課題に取り組むキフレ(左)とポール(右)

インターナショナルオフィスからのお知らせ



田中 蘭 (国際交流担当)

信念や志を持って世界中へ飛び立っていく学生の方々や、海外から香川大学へ学びにやってくる留学生の方々の情熱を日々感じられる職場で嬉しく思います。「Life is a journey」人生という冒険の真っ只中である学生の方々の背中を押してあげられるような国際交流サポートを目指して頑張ります。宜しく申し上げます。

豊田 莉乃 (Global cafe)

学生の皆様が国際交流を楽しめるように支援させていただきます。グローバル・カフェイベントにぜひ気軽にご参加ください。お会いできることを楽しみにしています。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第23号 2020年(令和2年)12月25日

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <https://www.facebook.com/KUISC>
グローバル-カフェfacebook
URL : <https://www.facebook.com/GlobalCafeKagawaUniv>